

「日中植林・植樹国際連帯事業」 中国西南地区防災訪日代表团 参加者の感想（抜粋）

○今回の日本での防災、減災、災害救助分野の視察と交流を通じて、日本は自然災害が頻発する国であり、歴史的にも何度も災害による深刻な損失を被り、そのため国全体が、政府から一般市民まで、突発的な自然災害への対応に対して非常に高い認識と精神的準備を備えていることを、改めて痛感した。大きな突発的な自然災害が発生するたびに、いかに対応し、早急に生産力を回復させるかについて、絶えず経験と教訓を総括し、整った対策や方法が出来上がっている。特に、各種の科学研究機関が、国内の先進的なテクノロジーを用いて、防災減災・災害救助業務の規範に関して絶えず探求している姿は、非常に強く印象に残った。例えば、国土交通省の「国土強靱化基本計画」では、気象庁が災害予報に関して多くの業務を担当している。つくば市の防災科学技術研究所や国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所では、単一種類の自然災害について深く研究し探求している。こうした点は、中国の同分野でも真摯に学び、参考にするべきである。

両国が今後、当該分野で協力と交流を強化し、畏敬すべき自然の中で、絶えず前進していくことを期待する。

○日本は災害多発国であり、国土が狭く、地震・津波・火山噴火などの自然災害が頻発している。長年にわたり、日本の政府・国民・企業は防災減災のシステム構築をとっても重視し、現在では各種自然災害に対応できる体制やメカニズム・法律・技術研究支援体系などが整っている。また、国民の教育も幅広く深く行われており、国全体で防災減災に対する確固たる基礎が築かれている。国民に防災減災意識が根付いており、防災減災が日常生活にまさに溶け込んでいる。

1. 防災法制では、日本では大規模災害が発生するたびに各種法律法規を改訂することだ。大規模災害で生じた問題に対して的確な調整を行い、それが長年蓄積されて、地方から全国レベルまで法治体制が整っている。これが防災減災において非常に大きな役割を發揮する。
2. 研究と技術体系の面では、我々はいくつもの研究機関や防災試験場、神戸大学などを訪問し、数多くの専門家や学者たちが防災の研究に一心に取り組み、新たな防災技術を開発し、それらを現実に活用していることを知った。一例として、富士砂防事務所での業績は極めて大きな成果を挙げている。
3. 民間の救援組織や企業の防災責任、国全体の防災文化など、どれもとても印象深かった。

○日本と中国は、国家体制や社会形態、文化の面でさまざまな違いがある。しかし、多くの面で、中国と似通っていると感じる。日本は私にとって、知っているようで知らな

い国である。今回の訪日の重点は、政府機関や自治体、財団などの公益施設や社会組織の面から学び、理解することである。学習を通じて、日本人の防災減災意識の強さは、表面的なものではなく生活に活かされ、国民の生活習慣の奥深くまで浸透していることを知り、その意識が日本人の DNA に刻まれていると感じた。中国は国民への周知や教育の面でまだまだ努力が必要で、防災減災が一般市民にとっていかに有利かということ、また、すべてを政府に依存するのではなく、一人ひとりや各団体が皆、自分の立場でできることをする、という教育を強化すべきだと思う。中国は今、“被災者の自主復興”を提唱している。であれば、防災減災知識の学習や技能訓練、ソフトパワーや施設の完備など、どれも“まず自ら実行”すべきである。特に、社会の力を利用して全国民への教育と訓練を強化することは、真摯に着実に実施すれば、我々の次の世代、そのまた次の世代へと防災減災意識が DNA に刻み込まれ、社会生活に必要な技術の一つになるかもしれない。

- 1. 国民の防災意識が強く、防災減災教育が幼少期から始められている。
- 2. 都市の環境衛生やごみ分別、建築施工時の防塵・騒音対策などが優れている。目の不自由な方の生活支援施設、コミュニティの資源リサイクルなど、どれも強く印象に残った。
- 3. 国民の省エネ意識が強い。東京・京都・静岡・神戸のどこに行っても軽自動車が大いに使用され、ハイブリッドカーが普及し、人気がある。
- 4. 経済復興の状況下にあって、人々が仕事を愛し、仕事を尊重している。我々の受け入れスタッフもとても礼儀正しく、業務能力も業務意識も高く、心から全力を尽くして自分の職責を果たそうという気持ちを感じることができる。
- 5. 国土交通省では「国土強靱化基本計画」を理解し、気象庁では大規模災害の天候時の警報対策を学び、京都駅では 20 年間の総合対策や中央防災センターのハイテク設備などを見学した。数多くの経験はどれも、相互交流や相互訪問、大学間での協力体制を強化できるものと感じた。

○ 今回のプログラムは防災減災がメインテーマである。日本の防災減災について、政府機関や基礎技術部門、防災教育、知識の普及拠点、大学や研究機関の参画、企業の参画など、多角的に訪問し、学習した。全体的には、日本の防災減災はボトムアップ方式で、市民が参与し、行政が支援をする。特に、国民の防災意識教育はこの方式である。防災減災教育は、知識を教えるだけのものではなく、意識の育成である。具体的な周辺環境に基づいて、対応するための基本的な識別能力と自己救済・相互救済意識、危険から逃れる能力を育成している。人と防災未来センターでの防災教育の手法と運営管理の方法は、強く印象に残った。自分と自分が所属する組織にとって、今後、業務を推進する上で非常に参考となるものであり、意義があった。帰国後、今回の研修での収穫を整理し、

地元の NGO とその成果を共有し、協力して防災減災業務を推進したい。機会があれば、地元の仲間たちと一緒に日本を再訪し、防災減災業務についてより深く意見交換したい。

○印象深かった点：

1. 毎日いつでも、日本人は挨拶をしてくれる。バスに乗車する際も、ドライバーがドア前に立って挨拶してくれる。
2. 富士砂防事務所を視察した際、岩石の崩落や噴出に備える堤防が着実に建設されていることに驚かされた。これほど多量の堤防を築いている状況を見れば、日本が防災減災プロジェクトにおいて厳粛に、人の暮らしと命を重視していることが十分に理解できる。また晴天の富士山の美しさも忘れられない。あまりにも清らかで上品だった。

周囲に伝えたい点：

1. 防災減災について。日本人の防災減災意識は非常に強く、命を大事にしている。それは、例えば次の点に表れている。家屋が耐震構造になっており、通常の地震では死傷事故にはならない。長期的かつ定期的に緊急対応訓練をしている。基本的な救急技能の養成や学習をしている。生活においても、交通安全や防火の意識が強く、常に安全に注意している。
2. 日本の文化について。日本は人々が相互に信頼し相互に尊重する国である。厳重な検査をしなくても、事故はほとんど起きない。どの職場もスタッフが熱心に、元気よく、敬意を払って仕事をしている。毎回乗車の度に挨拶してくれるドライバー、車両がなくてもレインコートを着て風雨の中に立ち続ける保安要員、日本独特の料理、等々である。
3. 日本の美しさ。東京タワー、富士山等。

○プログラムの初日、国土交通省と気象庁を訪問し、地震観測や津波・台風・火山などの災害監視観測状況の講義を聞いた。最も印象深かったのは、日本の観測・予報システムや救援・防災のシステムである。例えば、緊急地震速報や緊急災害対策派遣隊など、日本が追究を極め、そしてすでに大きな成果を挙げていることに、驚きを禁じ得なかった。

学術研究以外にも、日本人の国民性にもとても驚き、自らの足りなさを恥じ入った。バスに乗降する際、ドライバーが丁寧に挨拶してくれることや、ドアを出入りするとき店員やホテルマンが一人ひとりの動きに合わせてくれること等、日本ではすべての国民が礼儀と相互尊重が習慣となっている。ごみ一つない通りや街角、小声で話す室内や街角、日本ではすべての国民が法律を順守することを自覚し、果たすべき道徳を自ら尽くしている。中国の大多数の人々は、日本への偏見が強すぎると私は思う。私は自らの力

を通じて、周囲の人たちの日本に対する誤った見方を可能な限り変えていきたいと思う。

○敬服したのは、日本の防災と復興の力、そして将来的な災害対応への体系作りと科学研究の能力である。市民が相互救助・相互扶助する点が、強く印象に残った。神戸大学学生2名のボランティアの話を聞き、自分の故郷で発生した二度の大地震を思い出した。政府の力強い救助だけでなく、日本と同様に数多くのボランティアが被災地で救助に当たってくれたのだ。富士砂防事務所の視察と扇状地での植樹もとても意義深かった。日本の象徴である富士山も見ることができ、興奮し、忘れがたい思い出となった。